

荒川ハンノキプロジェクト & 荒川の草花を育てようプロジェクト

荒川ハンノキプロジェクトは、埼玉県の蝶「ミドリシジミ」のために、三ツ又沼ビオトープにハンノキの林を取りもどすプロジェクトです。荒川の草花を育てようプロジェクトは、外来植物*が増えるのをおさえるために、三ツ又沼ビオトープ周辺にもともと生えていた野草を増やす取り組みです。サポーター事務局では、この取り組みに参加する企業・団体・学校を募集しています。

*外来植物：人によって地域の外から持ち込まれた植物

今年度の目標決めと現地活動

上尾市立太平中学校 科学部

太平中学校の科学部は、平成 13 年からプロジェクトに参加しており、部活動の時間に三ツ又沼ビオトープで活動しています。

6 月 9 日 (金)、新入部員に対し、まずは学校で三ツ又沼ビオトープの自然や活動について説明がありました。一年生は、上級生が語る木こり体験や生きものとのふれあいに特に興味を示している様子でした。最後に、今年度どのような活動をしていきたいかを皆で話し合い、生きものの観察や外来植物の駆除など、活動目標を決めました。

7 月 31 日 (月) は、あらかわ市民環境サポーターの指導のもと、現地での活動です。

保全管理活動として、在来植物を守るためにオオブタクサ、セイタカアワダチソウなどの外来植物の抜き取りをしたほか、埼玉県で絶滅の恐れのあるコガネグモなど、三ツ又沼ビオトープにすむ生きものを観察しました。



初めての三ツ又沼ビオトープ 川島町立出丸小学校

7 月 7 日 (金)、5 年生が今年度初めて三ツ又沼ビオトープを訪れました。保全管理活動では、あらかわ市民環境サポーターの指導のもと、外来植物であるセイタカアワダチソウをカ一杯抜き取りました。

汗を流したあとはお楽しみタイム。葉の一部を白く染めたハンゲショウの群落など、夏の三ツ又沼ビオトープの自然を観察しました。



いろいろな方が関わっています

三ツ又沼ビオトープに残された荒川の貴重な自然を守るために、いろいろな方々が三ツ又沼ビオトープに関わっています。

上尾市の小学生が取材

あげお子ども記者クラブ

「あげお子ども記者クラブ」は、上尾市が環境学習の一環として立ち上げた小学校4～6年生と保護者9組18名による記者クラブで、幅広い世代の環境意識の向上と、環境について学ぶ機会を増やすことを目的としています。今回は三ツ又沼ビオトープについて、6月24日(土)に早速1回目の取材があり、ミドリシジミやコガネグモの生息状況の確認を行いました。取材の結果は、上尾市の無料メールマガジン「AGECOスタイル～AGEOでECOな暮らし方～」にて配信されていますので、ぜひ読んでみてください。



竹の開花にも注目

浦和高等学園

5月16日(火)、浦和高等学園の生徒50名が、環境サポーターの案内のもと、自然観察と保全管理活動を行



いました。当日に行った保全管理活動は、セリバヒエンソウ(中国原産で、小さな薄紫色の花をつけます)の抜き取りや、河畔林を再生するための竹伐りでした。

また、およそ120年周期で開花するといわれている「ハチク」という竹の花も観察することができました。

外来種問題を知る

埼玉県立いずみ高等学校 生物サイエンス科

埼玉県立いずみ高等学校の生物サイエンス科2年生が、今年度も荒川の草花の発芽率を調べる実験を開始しました。この実験は在来植物の生育環境を守る



ために毎年行われており、今年度はトモエソウ、ヌスビトハギなど9種類の草花を調べます。

今年度の活動を始める生徒たちに対し、6月21日(水)に学校で、荒川やその流域の自然、三ツ又沼ビオトープでの自然を守る取り組みを紹介しました。

7月12日(水)の現地実習では、環境サポーターの指導のもと、セイタカアワダチソウの抜き取りを行いました。



【三ツ又沼ビオトープ】

上尾市と川越市、川島町のさかい目にある、荒川の豊かな自然が守られている場所です。いつでも、だれでも自然に親しむことができます。

【環境サポーター大募集!】

自然を守る活動や自然学習の指導をする「あらかわ市民環境サポーター」を募集しています(荒川上流河川事務所内のサポーター事務局にて登録)。

地域の自然を守るためには、地域の方の力が欠かせません。自然が好きな方、荒川が好きな方、体を動かしたい方、いろいろな人と交流したい方、ご連絡をお待ちしています!